

牛久：学校周辺に見る自然

第39号 みずべ公園(ひたち野うしく小)

2016年10月29日発行

＜ 動物のすみか ～ ⑭ 3年2組の皆さんと歩いたみずべ公園 ＞

がっきゅうへいさ えんき
学級閉鎖等で延期になっていた3年2組の皆さんと、10/18にようやく観察に行けました。4、5組とは2週間差、1、3組とは3週間差で、その違いも少しみられました。



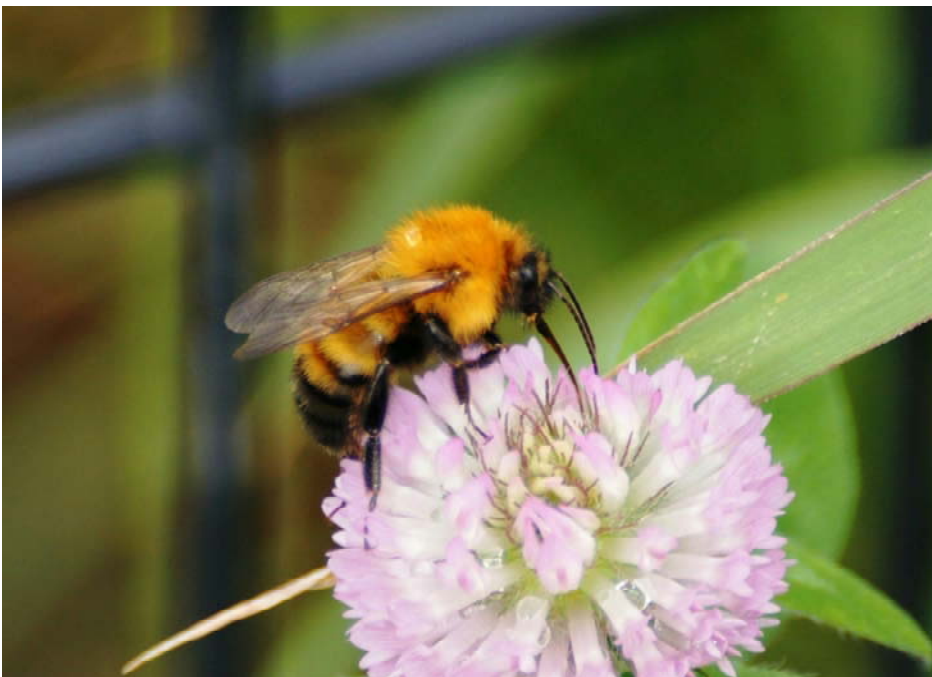
この日も見られた、ナナホシテントウの幼虫(左)、さなぎ(中)、成虫(右)。

他クラスと同じ場所で、この日もナナホシテントウの幼虫からさなぎ、成虫まで観察できました。2、3週間前とくらべると、やや幼虫の割合が少なくなったようです。



その他のコウチュウ類では、落ち葉の中を移動中のオオヒラタシデムシを見つけてくれましたね。動物の死体を食べると聞いて、「え～っ！」とびっくりしていましたが、こういう生きものもいないと、林の中は死体だらけになってしまうのです。自然界では重要な役割をもつ生きものでもあると知ったら、親しみのわいた子もいたようでした。

落ち葉の中を移動していた、オオヒラタシデムシ。小動物などの死がいを食べてくれる。



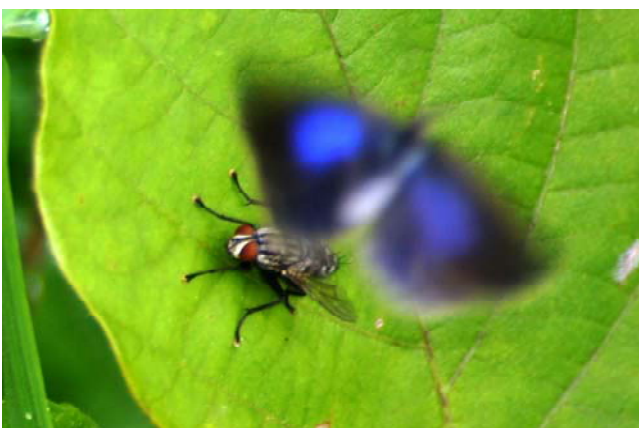
ハチのなかまは、前回多かったハラナガツチバチもふくめずいぶんと少なくなっていました。ビンゴシートで苦労していた子もいましたね。学校にもどる時、公園のフェンスぎわでムラサキツメクサの蜜を吸っているトラマルハナバチを見つけてくれました。

ムラサキツメクサの蜜を吸う、トラマルハナバチ。



ハグロハバチの幼虫(左)と成虫(右)。

前回も見られたハグロハバチの幼虫は、この日はずっと多くなっていて、葉脈だけを残して食べつくされたギシギシの葉もありました。成虫も、そのまわりを飛んでいましたね。



チョウのなかまでは、前回多かったウラナミシジミやツマグロヒョウモンがぐんとへり、成虫越冬のウラギンシジミやムラサキシジミが見られるようになりました。

ムラサキツメクサの蜜を吸う、モンキチョウ(左上)。
カタバミの蜜を吸う、ヤマトシジミのおす(右上)。
コナラの葉にとまる、ウラギンシジミのめす(左中)。
ミゾソバに来たヤマトシジミ(右下)。
ハエを撮ったら偶然写りこんだムラサキシジミ(左下)。



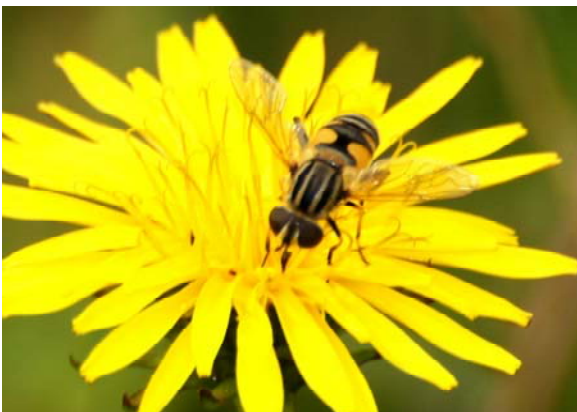
アメリカシロヒトリの幼虫(左)と、タンポポの葉を食べていたホソバセダカモクメの幼虫(右)。

ガのなかまでは、イヌツゲにからみつけたクズの葉のうらにアメリカシロヒトリの幼虫がいました。また通路ぞいの草むらで、タンポポの葉を食べるホソバセダカモクメの幼虫を見つけられました。



ツユクサの花にホバリングしながら近づき(左上)、花粉をなめるホソヒラタアブ(左下)。口先をのばして花粉をなめる(右：別角度から)

ツユクサの小さな花にも、蜜や花粉を求めてやってくる昆虫がいます。おなじみのホソヒラタアブでした。ホバリングしながら近づいては、花粉を食べていました。



セイヨウタンポポにも、アシトハナアブが来ていました。こちらも口先をのばし、花粉や蜜をなめていました。タンポポというと春のイメージがありますが、ヨーロッパから来たセイヨウタンポポは早春から晩秋まで咲きます。しかも、めしべに花粉がつかなくても種子をつくってしまうのです。みずべ公園ではその他に、カントウタンポポやアカミタンポポも見られます。

セイヨウタンポポの蜜や花粉をなめるシマアシトハナアブ。



こちらはハエのなかまですが、ミゾソバの花から花へとつりながら、蜜か花粉をなめているようでした。前ページのハナアブ類は、黄色と黒のしまもようなどがあってよくハチとまちがえられますが、体のつくりの特ちょうをよく観察すると、ハエに近いなかまであることが分かります。羽の数、複眼の大きさ、触角の長さなどくらべてみましょう。

ミゾソバに来た、ハエのなかま。



羽が長めのコバネイナゴ(左上)。なぜか後ろ足を上げていたヒシバツタ(左下)。さくらの幹にとまるアオマツムシ(右)。



バッタのなかまはコバネイナゴが今回も多く、ヒシバツタやショウリョウバッタが見られた他はほとんど見かけませんでした。桜の幹には今回はめすのアオマツムシがいました。おすとどこが違うか？第35号おすの写真とくらべてみましょう。

左はコカマキリ。カマキリはバッタのなかまと思われがちですが、それほど近いなかまでなく、また、他の虫などをおそって食べるハンターです。

カマの内側のもように特ちょうがある、コカマキリ。



赤とんぼのなかまはあまり変わりませんでした。アキアカネの割合が増えたように思いました。腹端を水面に打ちつける産卵シーンも見られましたね。この日はナツアカネのめすの写真も撮れたので、前回に追加でのせておきますね。

ナツアカネのめす。アキアカネとは、胸のもようで見分けられる。



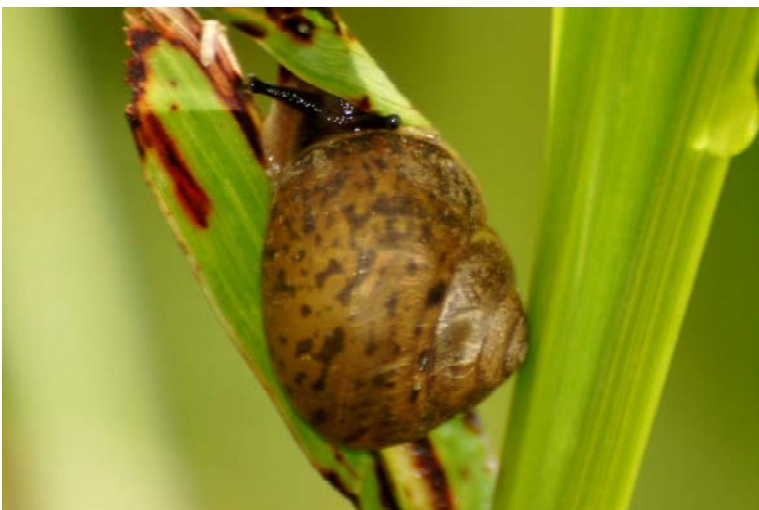
モリチャバネゴキブリ(左)と、その幼虫(右)。

「ゴキブリみたいな虫がいる〜っ！」と、呼んでくれました。見るとまさにゴキブリ。でもご安心を。これは林や草むらなどでくらし、よく落ち葉の下などにいるモリチャバネゴキブリで、家の中には入って来ない種類です。幼虫もいましたね。



小バエを捕えたマミジロハエトリ(左上)。すばしっこく葉裏にかくれるオスクロハエトリのおす(右)。クサグモとまじって、たな状の網をはるコクサグモ(左下)。

クモはジョロウグモがたくさん見られましたが、前回見られなかったマミジロハエトリが小バエをつかまえているようすや、おすの体が黒いのが特ちょうの一つのオスクロハエトリのおす、そして前回クサグモを見た同じ場所でよく似たコクサグモも見られました。



最後に、カラがうすくて中身がすけてもようが見えるかたつむり、ウスカワマイマイと、「空飛ぶ青い宝石」ともよばれるカワセミ。【理科支援員:宮内】



カラがうすいので中身がすけて見えるウスカワマイマイ(左)と、長いくちばしの青い小鳥、カワセミ(右)。